

小学校1年生を対象にした オンライン作曲ワークショップ実践報告

深見友紀子 (大東文化大学文学部)
鈴木正樹 (ミュージシャン/音楽教育家)

Online Composition Workshop for 1st grade elementary school students Practice Report

Yukiko FUKAMI
Masaki SUZUKI

要旨

GIGA スクール構想によって1人1台端末が整備されたことに伴い、タブレット端末は、子どもたちにとって日常的な学習の道具となりつつある。そこで、筆者が主宰する音楽教室の生徒である新宿区の公立小学校1年生4名を対象に、iOS作曲アプリGrageBandを使用したオンライン作曲ワークショップを実施した。ZOOM Cloud Meetingsによるグループレッスン(同期)を2回、LINEによるGrageBandの再生動画データの講師への提出、講師からの動画によるアドバイス(非同期)を2回、合計4回の実践により、作曲アプリ未経験の児童が伴奏付きのオリジナルメロディを完成させることができた。この研究ノートでは、実践のプロセス等を報告し、その内容を考察するとともに、民間の音楽教室における作曲アプリを使った実践の今後について私見を述べる。

1. 実践の概要

(1) 日程

2021年12月26日(日) 16時～17時 ZOOM Cloud Meetings (1回目)
2022年1月3日(月) 宿題提出の締切(1回目)→アドバイス動画の送信
2022年1月9日(日) 17時～18時 ZOOM Cloud Meetings (2回目)
2022年1月16日(日) 宿題提出の締切(2回目)→アドバイス動画の送信

(2) 講師、参加した児童

講師は筆者が主宰する音楽教室、深見友紀子ミュージック・ラボのオンラインドラムレッスン講

師で、近年、学校向けワークショップなどでも実績がある鈴木正樹氏である。参加した児童はO、Y、I、Nの4名。それぞれのピアノ学習歴は2年8カ月、2年3カ月、1年10カ月、3年3カ月と若干の差があり、演奏力や読譜力等も同レベルではないが、この実践に必要な鍵盤と音名の対応、音符の長さや小節、和音に対する理解は十分である。ただし、和音を表すコードネームはほとんど知らない。本実践時、YとNは小学校の同級生であり、O、Y、Iは同じ保育園に通っていたかつての同級生である。冬休み期間中であったこともあり、ZOOM Cloud Meetings および宿題の提出において、それぞれの保護者がサポートした。

2. ZOOM Cloud Meetings (1回目)

1回目のワークショップの流れは以下のとおりである。リモートでのワークショップだったためか、児童たちは緊張していたが、クリスマスプレゼントについて紹介し合った時点から和気あいあいと進めることができた〔図1〕。

目標 「オリジナルメロディをつくろう」(C→F→G→Cのコード進行を入力した後、4分音符によるメロディをつくる)

- (1) 実践日程の確認
- (2) 自己紹介など



図1 自己紹介の様子

- (3) GarageBandの説明〔図2〕

いろいろな楽器を指一本で演奏できる。

入力した音を確認し、即座にやり直すことができる。

音を重ねて入力し、曲をつくることができる。



図2 GarageBand

(4) 操作方法の説明と習得

楽器選択の方法～今回はKEYBOARDを選ぶ〔図3〕

コード入力画面（Smart Piano）の使い方〔図4〕

メロディ入力画面の使い方〔図5〕



図3 楽器選択 KEYBOARD



図4 コード入力画面

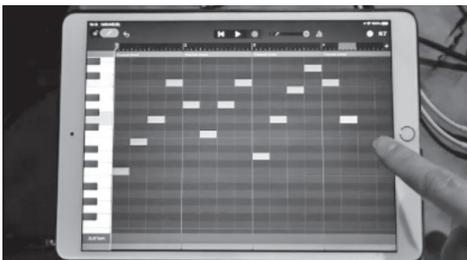


図5 メロディ入力画面

(5) コード C → F → G → C (4小節) の入力 (録音)

つくった4小節をループさせて8小節にする〔図6〕

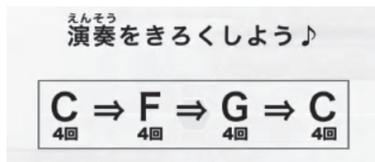


図6 コード進行 (C → F → G → C)

(6) コード入力時の注意点

できる限りメトロノームに合わせて等速で入力する。

ずれてしまったときは、クオンタイズ¹を活用する。

(7) メロディの入力 (8小節)

コード伴奏に合わせ、コードの構成音を使ってメロディの入力をする〔図7、図8〕。

しょうせつ 小節		1				2				3				4			
びく 拍		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
コード		C				F				G				C			
こうせいおん 構成音	シ																
	ラ																
	ソ																
	ファ																
	ミ																
	レ																
	ド																

図7 コードの構成音



図8 メロディの入力

¹ 指定された音符の種類によって、発音タイミングを強制的にジャストのタイミングへ移動させる、タイミング補正の機能

(8) メロディ入力時の注意点

- なるべくコードの構成音を使う。
- 同じ拍に音を重ねない。
- あまりにも高すぎたり、低すぎる音を使わない。

(9) 課題

4分音符によるオリジナルメロディ（8小節）をつくり、GarageBandの再生を撮影し、そのデータをLINEで講師に送信する。

3. 児童のオリジナルメロディに対するアドバイス（1回目）

児童から提出されたオリジナルメロディ〔図9〕に対して、鈴木講師が感想を動画でフィードバックした。また、4分音符だけではなく、8分音符を使ってブラッシュアップすることを指示した。

Oさん…きちんと考えてつくっています。5～8小節目、1拍目の音が次第に上がっていて、ワクワクします。

Yさん…（作品を2つ提出）1つ目…前半4小節は音程に動きが少なく落ち着いていて、後半4小節は音程が動き始めて賑やか。前半と後半が対照的なので聴いている人を飽きさせないです。2つ目…1、2小節目が“下がって、上がる”谷型のメロディラインを繰り返していて、4小節目、8小節目は終わる感じになっています。音が跳ぶところは意外性があります。

Iさん…2、3小節目の音の跳び方がナイスです。後半はコードの構成音を使うようにしてください。赤マークをしたのでやり直しましょう〔図10〕。

Nさん…1小節目と4小節目では同じメロディ（ドミソミ）を反復していて、5小節目ではドミソドと変化させています。反復と変化をうまく使っています。

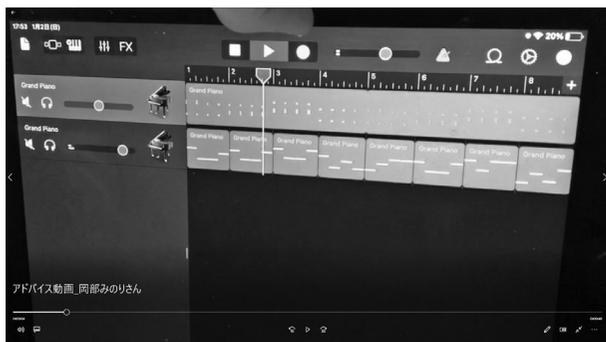


図9 提出された GarageBand 画面の例（1回目）

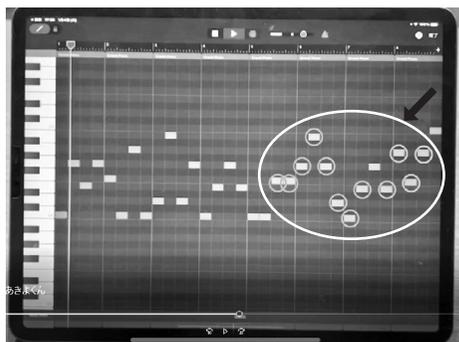


図10 構成音と異なる箇所をマーク

4. ZOOM Cloud Meetings (2回目)

鈴木講師のアドバイスを受け、児童全員が提出したオリジナルメロディの手直しを行った後、集合した。

目標 「オリジナルメロディを完成させよう」(C→F→G→C以外のコード進行を試して入力した後、ドラムパートを追加し、4分音符・8分音符・休符によるメロディをつくる)

(1) つくったメロディの発表 なまえ/いっしょにつくった人/お気に入りのところ

(2) 操作方法の説明と習得

トラックのコピー&ペーストの方法(新しいメロディ、コード入力のための準備)〔図11〕

異なるコード進行とそれに合うメロディづくりの方法〔図12〕

Drummer機能の説明〔図13〕



図11 新たなトラックを追加



図12 異なるコード進行とそれに合うメロディづくり



図13 Drummer画面

(3) 他のコード進行を試す

以下のコードの構成音を確認し、①～⑥のコード進行を入力（録音）した後、メロディの手直しを行う〔図14〕。

【おすすめコード^{しんこう}進行】

① F - G - Em - Am

② Am - F - G - C

③ F - G - Am - C

④ F - G - Am - Em

⑤ C - G - Am - F

⑥ Am - F - C - G

コード	C	F	G	Em	Am
シ					
ラ					
ソ					
こうせいおん 構成音	ファ				
	ミ				
	レ				
	ド				

図14 おすすめコード進行

(4) ドラムパートを追加し、さらにメロディの手直しを行う。

(5) 課題

C→F→G→C以外のコード進行を試し、ドラムパートを追加する。そして、4分音符・8分音符・休符によるオリジナルメロディ（8小節）をつくり、GarageBandの再生を撮影し、そのデータをLINEで講師に送信する。

5. 児童のオリジナルメロディに対するアドバイス（2回目）

児童から提出されたオリジナルメロディは1回目と比べ、トラック数も増え、バージョンアップしている。それらに対して、鈴木講師が感想を動画でフィードバックした〔図15〕。

Oさん…つくりたい曲のイメージがはっきりしているので、選びたい楽器が決まったということですね。ストリングス、パーカッション、ビブラフォン、いずれも曲に合っています。メロディとコードもぴったり合っています。さらに発展させるには、オーボエやクラリネットなどの木管楽器で副メロディをつくとよいでしょう。

Yさん…コード進行をいろいろと試したことが窺える完成度が高い作品です。メロディとパストラムのリズムが合っていてとてもよいと思います。曲の後半、メロディの音が高くなり、盛

り上がっています。さらに発展させるには、ギターやベースを追加して、バンドサウンドを目指しましょう。

Iさん…伴奏が拍到きちんと揃いました。ところどころに休符も入っていて、リズムカルになっています。ドラムの音量をもう少し下げましょう。最後の小節(8小節目)の4拍目を休みにするとより終止感が出ますので、修正してみてください。

Nさん…楽器同士の音量のバランスがとてもよいです。メロディにシンコペーションを多用していてリズムカルです。7小節目でメロディの音を高くしていくとより盛り上がるでしょう。

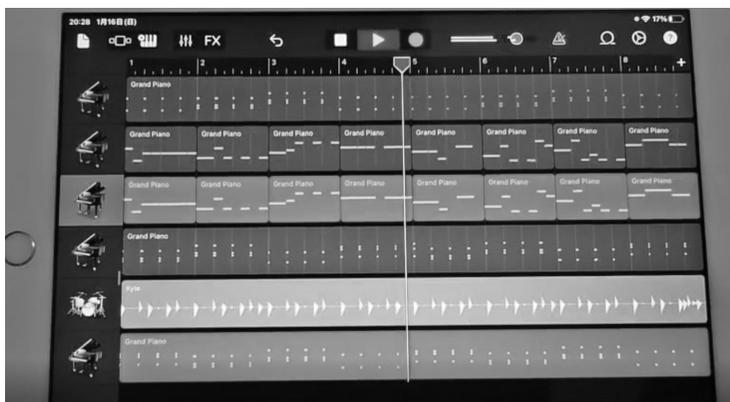


図15 提出された GarageBand 画面の例(2回目)

6. 考察

(1) Drummer 機能の効果

ZOOM Cloud Meetings において児童らの顔が最も生き生きとしたのは、Drummer 機能でドラムパートがついたときであった(第2回)。「リズム感がアップした!」「ドラムがついて曲らしくなった」「ドラムとピアノが合わさるとよくなった」といったコメントが聞かれた。

ドラムがつくことで、メロディも各段にリズムカルになった。今回は比較的速いテンポに設定したが、おそらくテンポを遅くすると、バラード風のメロディにしようとするだろう。入力するときにメトロノームを鳴らしながら行るのが一般的だが、早い段階からドラムをつけてメロディを考えたほうがより楽しく取り組めると感じた。

(2) 小学校でのワークショップとの比較

本実践の内容は、小学校5年生の教科書『小学音楽 音楽のおくりもの5』、「音のスケッチ 和音な合わせてせんりつをつくらう」に基づいている。ただし、本実践で行った他のコード進行も試して入力することは範囲外であり、C→F→G→Cのコード進行で4分音符・8分音符・休符によるオリジナルメロディをつくるまでである。つまり、小学校5年生の授業実践と比べ、本

実践の内容のほうがより高度なのである。

一般的に、小学校でこのような作曲ワークショップを実施する場合は3時間扱いで行われている。鈴木講師によれば、1時間目は、事前に音楽専科教員に送ったGarageBandの操作方法の説明動画を視聴し、2、3時間目に、鈴木氏がZOOM Cloud Meetingsなどでワークショップを開催するという時間配分にしているという。

本実践では1年生児童4名全員が十分なクオリティのオリジナルメロディを提出できたが、一般的には5年生であってもここまでできる児童は20～30%であるという。さらに本実践では、他のコード進行も試して入力したことを考えると、参加した児童が日常的に音楽教室でピアノ演奏を学んでいることがよい結果に結びついたと思われる。

さらに、保護者のサポートも実践の遂行に寄与した。1年生の場合、児童のみがリモートでアプリの操作に関する説明を聞き、実際にやってみる、友だちのメロディを聴いてコメントするということはなかなか困難である。本実践では保護者らが非常に協力的であり、彼らに時間的余裕がある冬休み期間に実施されたことも功を奏した要因であったが、すべての実践で保護者の協力を得ることは現実的には難しい。民間の音楽教室でも児童のみの参加となると、3年生以上が妥当であると感じる。

(3) 1年生には困難な点

GarageBandの画面表記はカタカナに混じって漢字も多く、この点でも保護者のサポートが必要であった。しかしながら、シンセサイザーなどの電子楽器の場合もパネル面はすべて英語表記だが、子どもたちはすぐに慣れていくことから、漢字の読みの勉強になるぐらいの気軽さで取り組むとよいと思う。

クオンタイズ1/8とは、8分音符以下の演奏のずれを修正するということなのであるが、1年生の場合はまだ分数の学習をしていないので、リモートのグループ実践でこの機能を理解させるのは難しく、対面での個別のフォローが不可欠である。

(4) 1人アンサンブルの楽しさ

児童らは学校でクラス合奏などを行い、アンサンブルの楽しさを味わっているが、1人でトラックを重ねたり、楽器を追加するという作業を通じて、別の次元においてアンサンブルへの意識が芽生えるはずである。児童らが聴くアニメやゲームの曲は、作曲アプリ(DAW(シーケンスソフト))を使って制作されているゆえ、GarageBandなどを使ったオリジナルメロディづくりは、日常的に聴いている音楽を制作者の観点から聴くという耳が育つ。さらにはバンド演奏への意識も生まれるであろう。

(5) 音楽教室だからこそやれること

公教育の場合、1人1台端末としてChromebookが導入された学校が多かったため、

GarageBand を使用できず、Chrome Music Lab の Song Maker など代用している事例が多い。しかし、民間の音楽教室では制約はないので、筆者は今後も iOS アプリ GarageBand を使用し続けたいと思っている。また、公教育の場合、3 時間以上の実践をしようとする、「総合的な学習の時間」を使ったり、特別な時間枠が必要であるが、民間の音楽教室の場合はそのような縛りもない。本実践に参加した児童らには、次の段階のオリジナルメロディづくりを行い、GarageBand のサウンドと自身のピアノ演奏とを合わせるといった試みにも挑戦してもらいたいと願っている。

謝辞

本研究は、2021 年度大東文化大学特別研究費の支援を受けた。この場を借りて感謝を申し上げる。

参考 URL

- 1) iOS のための GarageBand 世界を沸かせるサウンドを、これ一つで。 <https://www.apple.com/jp/ios/garageband/> (参照日 2022.09.10)
- 2) [初心者向け] iOS 版 GarageBand の使い方 iPhone で作曲しよう! <https://www.dtmfb.com/garageband-ios-beginners/> (参照日 2022.09.10)
- 3) 習い事はパソコン作曲 若者に DTM 人気 日経 MJ 2021 年 6 月 9 日 <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC0253J0S1A600C2000000/> 深見友紀子ミュージック・ラボ「音楽制作コース」に対する取材記事 (参照日 2022.09.10)

1)



2)



3)

